



## 「神の愛による神の国の大使」

～主と共に歩む日々をもっと力強く！～

「そのため、みんなのことを想い、いつも祈っている。あなたがたが神に選ばれ、用意されていた最高の人生を歩み続け、イエスへの信頼から生まれる成果を発揮し、正しいことをする力がみなぎるように。そうすれば、誰もが神によって一変したみんなとその生き方を見て、我らが王たるイエス・救世主の名を高く称賛する。そして、イエスのおかげであなたがたも、称賛される。"ただ"、王たるイエス・救世主と神の恵みのおかげで。」  
2テサロニケ5章11・12節 [ALIVE訳]

新年が明けました。2020年は日本にとってはオリンピックイヤー。開催国の一員としては、何か不安と緊張がある中ですが、どうにか素晴らしい大会となって欲しいと祈り心で新年を迎えています。皆様にとっても、素晴らしい一年となりますように祈っています。

ただ今学んでいるテサロニケ人への手紙には、主のご再臨について多く書かれています。迫害下にあった初代教会のクリスチャンたちにとってやがて出会う主との再会こそが最大の希望であり、魂の拠り所でした。しかし、それが行き過ぎてしまい、世捨て人のように、この世と隔離されてしまうような生き方になってしまった部分がありました。そのことに危険性を感じて、パウロはこの世においてしっかりと信仰を成長させていくことを伝えていきました。

私たちは主を信じて従っていくのですが、それは、決して自分中心になることではなく、かえって、神の愛によって、神の国の拡大のために、この地上において主を証しする生き方をしていく。信仰深く歩むと共に、その軸足をしっかりと持って、より力強く、聖霊に満たされて、忍耐と信仰によって証していくものであると語られています(4節)。そして、彼らはその忍耐と信仰とをその迫害と患難のただ中においてあらわしていきました。

迫害と患難とは、信仰を忍耐強く守り抜く中で起ってくる闘いでもあります。闘いが苦しいからと言って、信仰を捨ててしまう訳にはいきません。決して譲れないものです。闘うことが苦しいために信仰を捨てて歩んでいるクリスチャンは多くいます。しかし、それでは名ばかりのクリスチャンとなってしまいます。力強いクリスチャンとは言えない状況です。

日本はクリスチャン国ではないので、ヨーロッパやアメリカとは違い、クリスチャンであるというだけで、理解してもらえない現実は多いと思います。だからこそ、クリスチャンであるということの証が光り輝くものとなることも事実です。

「恐れるな!小さい群よ。御国をくださることは父の御心なのである」とイエス様は弟子たちにおっしゃいました。正しいことをしていくということは、いつも少数派です。しかし、上記の11節のように、その力を主は豊かにお与えくださると約束しておられます。私たちには天国のカギが与えられています。それが与えられているのは教会、クリスチャンにだけです。そのカギを大胆に用いて、絶望の中にいる方々を永遠の希望の世界にお導きすることができるのです。